アタム技研

専用機器で福祉用具を早く、きれいに

アタム技研（愛知県扶桑町、丹羽平社長、☎0587・92・1161）は、独自開発のガス燃焼技術を活かし、高い洗浄・乾燥能力をもつ福祉用具メンテナンス機器を開発・製造・販売する。福祉用具事業者や介護施設では、質の高い福祉用具をスピーディーに提供しようと、同社の機器を活用している。実際に機器を活用している事業者・施設に取り組みを聞いた。

洗浄効率高め、限られた人材活かす

パラマウントケアサービス

レンタル卸大手のパラマウントケアサービス（東京都墨田区、太田幸男社長）は、昨年11月に開設した「厚木メンテナンスセンター」（神奈川県厚木市）で、アタム技研の機器を導入している。

約9700㎡と同社最大クラスの同センターは、千葉県山武市にあるセンターとともに、関東エリアの用具メンテナンスを担う。同エリアの物流効率を高めてCO_2排出削減を図ると同時に、災害時などでの事業継続に向けた役割も果たす。

同センターでは、用具を載せたカゴ台車を前面から入れ背面から出せる、パススルー型の洗浄機3台と、ファイバー系・ウレタン系など異なる素材のマットレスを2枚同時に洗浄・脱水できる機器、マットレス乾燥機、車いす車輪洗浄機を活用する。

「洗浄機はベッドフレームの入り組んだ部分まで行き届いて、洗い残しがなく、ほとんどヤニ汚れも落とせている。洗浄後の水切れもよく、乾燥も早くなった。スタッフの技術や経験に関わらず、洗浄品質が標準化できている」と経営企画室室長の由利真士氏は話す。

「パススルー型の洗浄機は、用具を載せたカゴ台車をそのまま出し入れできる。台車に載せればどのような用具でも対応可能なので、あらゆる品目が機械で洗えて、効率が大幅に上がった」と評価する。

機械で洗浄工程の時間を短縮できた分、スタッフは仕上がり確認などにしっかり時間をかけられるようになった。

センターでは、洗浄後の用具を自動梱包する設備を導入するなど、各工程の省力化を進め、人材確保が困難な中でも、質を下げずに業務継続できる体制を整えている。

同社は、環境負荷軽減や安全な用具の提供に、さらに注力していく。

日本のベッドも高品質メンテで提供

韓国シニア研究所（韓国・ソウル）

韓国・ソウルにある「韓国シニア研究所」は、同国の介護保険制度で福祉用具レンタル・販売事業などを展開する。

同社は「スマイルシニア」のブランド名で、訪問系サービスを中心に、全国に約70拠点展開。フランチャイズよりも事業運営で自立性のある「メンバーシップ」という形で事業を拡げている。

他に直営のデイサービスを4カ所運営するほか、昨年から福祉用具サービスも直営で始めた。

「サービスの質を保つには、自社で洗浄・消毒できる体制が必要だと考え、今年2月にソウル市南部ベッドタウンに業界最大の首都圏メンテナンスセンターを開設した」と同社のイム・キジュン専務。

センターには、アタム技研のマットレス洗浄・脱水機、ベッドフレームやマットレスなどに対応する高速乾燥機、車いすやベッドパーツを洗える小型洗浄・乾燥機、車いす車輪洗浄機を導入した。

同社では、韓国ではまだ珍しい日本メーカーのベッドを取り扱うことになったのも大きなきっかけだった。

韓国メーカーのベッドは、フレームを分解できない機種が多く、ほとんどは手による清拭で対応しており、洗浄機器の活用はまだ少ないという。

イム専務は昨秋に来日し、その際アタム技研の実機を見て、操作性や洗浄能力、スピードなどが導入の決め手となった。

「人の手による対応では、洗浄品質に限界がある。韓国でも人材不足は深刻で、機械による業務環境の改善なしでは、安定して事業を続けにくい」とイム専務。

同社は今後、国内の主要都市で、直営の福祉用具サービス拠点をあと5カ所開設していく予定。

「質の高いレンタル商品の提供を通じて、他社との差別化を図りたい」とイム専務は話した。

職員の負担なく車いすの清潔保持

特養「和楽ホーム」（東京都青梅市）

東京都青梅市の特別養護老人ホーム「和楽ホーム」（社会福祉法人博仁会）は、ショート含めて定員129床の大規模施設。

同施設では、都の補助金を活用しシルエットタイプの見守りセンサーを導入。プライバシーを守りながら訪室の要否が判断でき、夜勤職員の見守り業務の負担が大幅に軽減している。

介護業務環境の改善を進める中で、入所者120人のうち約80人が使う車いすの清潔保持が新たな課題として挙がった。

「当施設では、居室の担当の介護職員が車いすを洗うことになっている。ただ実際には、その時間を確保するのは難しい」と宮澤良浩施設長。

居室の清掃やベッドメイクは4年ほど前に、介護職員の業務から外し、専従のパート職員に任せている。「車いすの洗浄も介護業務から切り分けたいが、人件費の問題もある。効率的にできる方法を色々調べた結果、アタム技研の洗浄機に行き着いた」と宮澤施設長は振り返る。

昨年秋に同社へ問合せた上で検討を重ね、介護施設向けに価格を抑えた、車いす自動洗浄乾燥機「リフレッシャーライトⅡ」を3月に導入した。

現在は、施設内5つのフロアが曜日ごとに、車いすを使わない夜間帯を中心に、順番で機械を使い洗っている。

「洗浄から乾燥まで50分ほど。電源を入れてスイッチを押すだけなので、介護職員にも負担がほぼない。車いすのシートに付いた食べこぼしや、車輪のスポークに溜まったホコリなどもすっきりと落とせて、職員からも好評だ」と宮澤施設長は話す。

車いすだけでなく、ベッドのサイドレールなど、機械に入れば他の様々な福祉用具も洗えるので、さらに幅広く環境改善に活用していく方針だ。